

平成 26 年度

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875201259		
法人名	有限会社 黎明		
事業所名	グループホーム ありあけ		
所在地	兵庫県神戸市西区 水谷1丁目11番21号		
自己評価作成日	平成26年3月17日	評価結果市町村受理日	平成26年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市松風町2-5-107		
訪問調査日	平成26年4月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1. 入居者の自己意志・希望・人権を重視しそして安全の確保を忘れない。 2. 家の次に居心地の良い所、家族の次に安心できる人として、家族とのパートナーシップを大切にす 3. 家族と共に地域と共に住み続けられる事を支援する。 以上のケアの姿勢 と入居者が、ゆっくり 楽しく 自分らしく 普通の当たり前の暮らしを支援していま す。</p>
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>季節の花々が植えられた家庭的な玄関は開放され、誰もが立ち寄り易い雰囲気である。室内にも季節の花が生けられ、明るく落ち着いた環境の中で利用者はゆっくりと過ごされている。運営推進会議を生かし、近隣の住民の方との情報交換や地域の情報の提供を受け、利用者と共に地域との交流を深め、地域の一員として暮らすことが出来るようになっている。管理者、職員は日々利用者と共に過ごす中で、一人ひとりの状態や状況・希望に応じて利用者がしたいこと、できそうなことを希望に応じて個別に支援することで尊厳やプライバシーを大切にされた支援に努めている。日常的に散歩や屋外で過ごす機会を持ち、喫茶店や買い物にも少人数で出かけたり、玄関前のベンチに腰掛け庭や周囲の草花を見て日光浴を楽しむ時間を持っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中の生活し、社会性を保ちながら入居者一人ひとりの自尊心を大切に生活している。又地域住民の協力を得て信頼関係を築く様にまずは気持ちよい対応を考えている。定期的な理念の唱和して、迷ったら理念に返って考えている。	利用者個々の生活のリズム、利用者・家族の希望・要望に沿った支援を行うように努め、近隣住民との挨拶などを通しての地域交流の継続を行い理念の実践を継続的に行っている。職員の定着が良く、全職員で利用者を主体的に考え支援することで基本理念の実現に努めており、職員が見やすい位置に掲示を継続し意識して取り組んでいる。	全職員で基本理念を生かした支援・取組をより深めていくために理念をより具体化し意識して取り組んでいくことが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り・正月などの初詣・時々の行事(運動会・中学の演奏会・防災訓練)などに参加している。又中学のトライアルウィークやボランティアなどの受入れは積極的に行なっている。	運営推進会議を生かし、近隣の住民の方との情報交換や地域の情報の提供を受け、利用者と共に地域との交流を深めるように取り組んでいる。地域の防災訓練には利用者と共に継続して参加し、地域の方の理解を深めてもらうことができ、地域の一員として暮らすことが出来るようになっている。中学生のトライやるウィークの受け入れやピアノや舞踊・折り紙教室・絵手紙教室などのボランティアの来訪も継続され、利用者が地域とのつながりを楽しむ機会となっている。	事業所の特色を生かして地域に貢献できる様な取り組みを実施していくことが望ましい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会で利用者の対応や状況・行事・地域の方から情報交換をしている。又電話で介護保険の利用方法などを問い合わせの場合は理解している範囲で答えている。掲示板には、認知症の対応方法を掲げている。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開き入居者の状況・行事・サービス内容・神戸市の回覧・地域・包括支援の情報交換等を行っている。又共益費収支・実費精算等を運営推進委員会の方々にも承認を得ている。議事録として残し見直しの話し合いをして、質の向上を図っている。地域の行事も教えて頂き防災訓練など参加している。	民生委員、自治会長、近隣のグループホーム職員、地域包括支援センター職員、利用者家族に出席してもらい2ヶ月に1回開催している。会議では利用者の状況や事業所の活動状況を報告し、事業所の現状や取り組み状況を把握してもらい、意見や提案を出してもらいやすように努めている。事業所での課題や地域の課題などについても会議の席で話し合い、検討が行われ、事業所だけでなく地域と協力・共同で課題解決に向けた取り組みが行われている。会議で地域の情報提供が行われ、利用者と共に地域行事へ参加する機会を増やすことができている。地域で考えられる災害は地震だけで、水害については心配がないと会議の中での情報提供で把握できている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホームの連絡会が定期的に関われ、議題では、困っている事・迷っている事などを検討・対応を聞き参考にしている。	会議の開催の報告は市に直接行っている。西区内で開催されるグループホーム連絡会には管理者が出席し、行政より地域の状況や動向などの情報提供を受け運営やサービスに反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	H. 21年に研修参加して身体拘束について話し合いを行った。以後ケアプランにも入れて対応している。又ケア会議の中に時間を設け拘束についての知識を共有している。又神戸市の集団指導での質疑形式研修を勧められ皆で勉強した。	外部研修への参加を推奨しており、身体拘束の研修に参加した職員が研修の内容を事業所内で報告し、全職員で研修内容の周知が行われている。内部で計画的に勉強会を実施しており、身体拘束は虐待防止と共に学習会を実施し、理解と浸透を図っていたが、平成25年度から研修資料を参考にテスト形式で全職員が理解を深めることができるように取り組んでいる。	

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加して全員で話し合って以後ケア会議でケアの方針などを話し合い統一を図っている。身体拘束の知識を深めた上で虐待なども注意を図っている。職員のトイレにポスターを貼り全員が気をつけている。神戸市の集団指導での質疑形式研修を勧められ皆で勉強した。	毎年の研修計画に基づいて身体拘束と共に虐待についても学習会で全職員が理解を深めることができるようにしており、身体拘束と同様にテスト形式で職員の理解を深めることができるように取り組んでいる。また利用者の課題を取り上げ、話し合い虐待の範囲や注意を促し利用者への支援を行うようにしている。普段から職員間で虐待につがなりそうな場面が見られれば注意をし合える関係が大切であると考え支援するようにしている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	積極的に研修などに参加・周知するようにケア会議などで話し合う。気をつけなければならないことは理解するように周知している。	現在、後見人の制度の利用をしている方もあり、職員は制度については理解している。成年後見制度について職員より制度の理解を深める希望があり、勉強会を開催して理解を深めるように取り組んだことがある。	今後も制度の理解を深めることができるように研修や勉強会を定期的に開催することが望まれる。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書は説明時に不安や疑問点の解消に努力している。家人のペースに合わせて都度確認をしながら納得して頂ける様に努めている。	契約までに契約書・重要事項説明書を事前に利用者・家族に渡し、内容を見てもらうようにしている。契約時に契約書・重要事項説明書の項目に沿って説明を行い、内容の理解を深めてもらうとともに疑問点についても説明を加えて行き納得を得るようにしている。契約書・重要事項説明書の内容に変更が生じた場合には、変更部分についての書面を作成し、説明を行った上で同意を得るようにしている。	

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1ヶ月の様子を報告する時に、何か意見・不満・苦情についてはスタッフ・管理者へも直接離せるように働きかけている。運営推進会議に利用者も参加し、意見願いを伝えて頂いている。玄関にはご意見箱を設置している。他のグループホームに火災があったことで自設の防火設備を家族に報告の希望があり、書面で報告した。	家族の面会も多くあり、職員から利用者の様子を話し、コミュニケーションを図ることで意見や要望・提案を出しやすいように努めている。出された意見や要望・提案は、毎月の会議で報告され全職員で情報共有を図り、運営やサービスに速やかに反映させるようにしている。毎月、利用者個別に生活の様子をお知らせし、意見や要望をいつでも聴取する旨を記載しより多くの意見や要望を聴取しサービスの質の向上に役立てるように努めている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議の時に話し合い又は検討して業務・処遇改善に反映させている。。管理者の判断で反映される事もある。	毎月の会議の機会に職員からの意見や提案を聴取するようにしている。また、日々管理者に職員からの気づきや意見を聞き取るようにしており、必要に応じて会議で検討を行い運営やサービスに反映させるようにしている。昨年の評価結果を参考に、全ユニットが合同で行う、ユニット全体会議を開催し、ユニット間の情報交換や意見交換、情報共有を図り、職員からの意見や提案を効率的に反映させる様に取り組んでいる。。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全ユニットに蜜に関わりを持ち、勤務状況や環境の整備の必要性など現状を把握した上で検討している。職員の希望日数・希望の休み日は、出来る範囲に添う様にしている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員が地域密着型サービスの重要性を知り、又経験・能力を把握し、段階を踏みながら研修へ参加の機会を確保している。内部研修・外部研修を受け報告する事やケア会議などで知識の共有を図っている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会での情報交換会や西区の勉強会・講習にも参加呼びかけている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活様式や生活リズムなどを踏まえて不安なことを少しずつ解消又は軽減できるように努めている。日常の中でコミュニケーションを取り多くの言葉を受け止めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスをする前に家族からの要望・不安な事・困っている事などは訊ねて受け止めている。説明の中に必ず気になることはないか訊ね確認をしている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向を踏まえたサービスを考え計画書を作成し、提供している。必ず評価を行い家族の意見を仰いでいる。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	声かけをし、出来る事はして頂いている。日常生活にいろんなことを共感し利用者の気持ちなども察し支えあう関係になるよう努めている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家人と利用者がお互いにいたわりあえるように両方の立場から話し、相談・協力し合える関係を築いている。時には家族に感謝の言葉を表しながら処遇・対応などを助けてもらう事もある。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の年賀状のやり取りや電話などにて、なじみの関係が保てるように支援している。又ご本人の意向に添い必要であれば、介入し、来訪時にもゆっくりできる様配慮している。	利用開始までの知人や友人との関係や交流が継続できるように電話や手紙のやり取りを支援している。知人や友人の来訪があれば、ゆっくりと面会してもらいえるように配慮されている。買い物や喫茶店・理美容院など馴染みの場所へも利用者の希望に応じて外出することができるように家族の理解と協力を得るようにしている。利用開始後にできた各ユニット間での関係も自由に移動し交流ができるように支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者同士の関係を把握しており、その時に応じて楽しめるような配置を考慮している。又孤立しないように職員も介入して関わりを増やし、お互いに支えあう関係作りを努めている。(レクレーション・ゲーム・行事・季節の壁絵など一緒に行っている。)		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、家人が遊びに来られたり、年賀状でやり取りをして楽しんでいる。又時には電話にて、相談をうけることもある。又家人の定期的の訪問は嬉しく有難いです。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に日常生活を過ごしている中、ご本人の希望・意向を伺い意思決定をしていただいている。また会話が困難な方には、ご本人の言動や生活の中から想いを汲み取るように努めている。	利用者自ら思いや意向・希望を申し出る方には話をしっかり聞き、思いや意向を把握するようにしている。自ら思いや意向を認知症の進行などで訴えることが困難な状況であっても、利用者へ支援を通して表情や行動を観察し、職員間で情報共有を連絡ノートやケア会議で行い、利用者の思いや意向・希望を把握するように努めている。利用開始からの経過が長い方は、これまでの関わりから利用者の思いや意向を利用者の立場に立ち考え把握し、支援するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴や家人からの情報を得て、ご本人の話しを基になじみの暮らしや環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在の心身の状態を知り、1日の記録に詳しい様子を記入し、把握できるように努めている。又どのような想いで生活しているかを感じ取り暮らしやすい方向へと努めている。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ご本人・家族・職員と話し合いそれぞれの意見を聞き、本人の良い介護計画、ケアが出来るように努めている。またモニタリングを行い支援状況の確認を行い状態の変化等あれば速やかに対策を講じている	各ユニットの計画作成担当者が各利用者担当職員を中心に利用者の状況を確認し、計画に反映させるようにしている。計画作成後、各利用者担当職員が毎月モニタリングを実施し、毎月のユニット会議の中で開催されるケア会議で評価を実施し、ケアプランの見直しの可否を確認している。ケアの経過として利用者の状況・状態を毎月まとめている。ケアの経過を基に6ヶ月に1回現状と予測される危険の予防策を书面化し、ケアプランに反映させ利用者の認知症の進行や身体機能低下について予防的な支援をプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夜間の様子を事細かく記入し、心身の変化や希望等の状況や気づきを誰が見ても解るようにしている。そのことを伝えることで統一したケアを実践して行きやすい。介護記録の内容から一ヶ月の把握・計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診では付き添い同行している。又利用者が入院する時には、家族が対応困難の時はまづ必要な入院支援などできることは行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での取り組みや行事など近隣の方から情報を得られている。又地域の方々やボランティアの方々による活動に触れたり、苑での取り組みなどを知って頂くことで協力し合い安全な生活につながっている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間毎の嘱託医に・往診・又必要時の連絡をして往診・助言・指示を受けられている。緊急時の場合はいつでも電話連絡など対応できるようにお願いしている。又入院先の紹介までお願いしている。	2週間に1回の定期的な往診を受け健康、疾患管理を行ってもらう他、必要に応じて受診も行い適切な医療を受けることができるように支援している。定期的な往診だけでなく、健康診断には、嘱託医の医療機関に受診するようにしている。歯科や皮膚科など専門医の受診を行う時には、家族の理解と協力を得て受診支援してもらうこともある。利用者の状態に変化が生じた場合には、いつでも嘱託医に連絡を取り指示を受け受診・入院も適切に行えるように支援している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送りや会議の中で介護職が伝えられる環境を作り、報告・連絡・相談をして必要なケアをしている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時には、家族と相談して早期の段階で病院の関係者と情報交換が出来るように努めている。又必要時は優先的に受診・診断できるように配慮も受けている。	入院になった場合には、サマリーを作成し、医療機関へ情報提供を行い、速やかに適切な医療・看護を受けることができるように支援している。入院中は家族が中心になり支援してもらっているが、医療機関・家族と連携を図り、退院の予定が立てば速やかに元の生活に戻ることができるように医療機関より情報提供を受け支援している。	

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの研修を受けました。利用者がターミナル時期に近ずいた場合囑託の先生・家族・職員で何回も話し合い、職員のできる事を説明し、利用者の安心した顔を見る事が多くなるようなケアをしている。又その都度・1週間単位で、家族の希望を聞きながら対応しています。	利用者・家族の希望により事業所で重度化・看取りを繰り返し支援する中で職員間で重度化・看取りに対して理解を深めていくことができている。契約時より重度化・看取りに対しての事業所としての方針を説明し同意を得ている。また、段階に応じて囑託医との連携や家族の理解と協力を得て職員は話し合いを繰り返し行い、統一した支援を行うようにしている。ターミナルケアについての外部研修の受講も行い理解を日々深めるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について学習・研修を受けている。緊急時のマニュアルや対応についても職員全体に配布している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と連携し火災災害時について講和を職員入居者全員で受けている。指導の下で日中・夜間の避難訓練を定期的実施している。近隣の方には消防訓練時には参加のお願いのチラシを配布しています。地域の消防隊の方にも考えている。	消防署と連携を図り消防訓練を行っている。年2回昼夜想定で利用者も参加し実施している。訓練を重ね利用者の状態に応じてスムーズな避難誘導だけでなく、持ち出し物品の徹底が図れ、利用者が安全に避難できる体制整備が行えるようになっている。また、地域の防災訓練に参加し地域との非常災害時の連携を図るよう取り組んでいる。	

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中親しく会話しているがその中でも、年配者には敬意を払った言葉掛けになるように留意している。又個別の内容は、居室で行い他者の耳に入らないようにしている。	日々過ごす中で、一人ひとりの状態や状況・希望に応じて対応することで尊厳やプライバシーを大切に支援をしている。また、利用者がしたいこと、できそうなことを一人ひとりの状況や状態・希望や要望に応じて個別に支援することで尊厳やプライバシーを大切に支援をしている。利用者へ声かけするだけでなく、利用者の顔や目線をみて利用者の思いや希望を目の動きや目の表情をみて読み取るように職員の位置や動きを工夫している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が不安な行動をする事は、利用者がどうしたいかを聞く。希望や日々どう過ごしたいか聞いたり、表情や言動から想いを汲み取り本人に決めてもらい希望に沿った支援に努めている。日々の食べ物も何が食べたい物・衣類の選びなども決めてもらっている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何か行動する時には、声かけをし、嫌がることは、無理強いせずその日の体調気分に合わせて個人個人に対応している。個人のできる事を役割としてもらっている。食事中は、BGMを聞きながら過ごしてもらっている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院への希望がある場合利用者は、2ヶ月に1回美容師の方に来て頂き、おしゃべりや笑顔が多く、楽しまれている。又外出時、衣類を選ぶ時は、本人のこのみを優先に一緒に選んで頂ける様に支援している。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいか聞きメニューに取り入れている。その方の出来る事をして頂き皆で準備し、スタッフも共に行い食事をしている。利用者の方から「手伝おうか」と声掛けくださることもあり、無理強いする事無く会話しながら楽しくおこなっている。	食べる量は少なくなってきたが、食べる楽しみが持てるように、利用者のできること、したいことを生かして、調理の作業に参加してもらえるように支援している。自らの思いや意向を訴えることが難しくなる中、利用者が食べたい物やしたいことが意思表示しやすいように選択肢を提示し確認することで利用者の希望する食事が楽しめるようにしている。献立は各ユニットで利用者の食べたい物を聞き、季節を考え献立を立て、各ユニットで利用者と共に調理から行き、おいしいもの、食べたい物を楽しく食べることができるよう支援している。2ヶ月に1回開催している全体会議で各ユニットでの課題や情報交換を行っている。外食の機会も持ち、食べる楽しみを増やしている。ミキサー食で全介助の方でも彩りやメニューの内容を丁寧に説明して、食事が楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	片よりの無いように献立を考えている。又食事・水分摂取量は、表を作り記入して、把握している。水分の不足している時にはその方の好みの水分を出したり声かけして水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者に応じた声かけ、誘導、介助を行っている。週1度 ハブラシ、コップ、義歯コップの消毒洗浄も行っている。又食前には、嚥下体操を行っている。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿失禁が見られる様になると、職員で話し合い、排泄パターンを把握して、声かけを行うことで排泄の自信とトイレへ行く事の認識を持って頂ける様にしている。段階的に行っている。	現在、利用者一人ひとりの排泄状況に応じて、声かけや誘導を行い排泄の自立へ向けた支援を行っている。利用者排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができるように支援しており、声かけだけで排泄できる方から排泄動作全般にわたっての支援が必要な方まで利用者のプライドや羞恥心に配慮した支援を個別に行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操、ストレッチを行い 水分 食物繊維の多い食べ物 ヨーグルトなどを日々食べていただき、必要な時に薬で対応している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	マンツーマンで入浴して頂いている。声かけしても嫌がられた時は、時間を置き再度声かけすることでスムーズに入浴してもらっている。	個別に入浴支援を行っており、利用者のADLの低下や認知症の進行の状況に応じて2人介助を行うようにしている。利用者が気持ちよく入浴してもらえるように誘導や支援については利用者個別に工夫を行い支援している。入浴拒否がある場合には、無理強いせず、日を変え誘導支援を行うようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を知り居室にて臥床して頂いたり、ソファで休憩して頂いたりしている。臥床・入眠前に不安発言聞かれる時には、傾聴し安心して頂き、休めるように温かい牛乳などを進めたりしている。		

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての職員が今服用されている薬がわかるように効用・副作用・又朝・昼・夕・眠前の薬を表にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前一人ひとりの生活歴を家族の方に記入して頂きそれを基に趣味を取り入れたりしている。食材配達・散歩・編物・縫物・ピアノを弾いて頂き皆で合唱する・献立のメニューを筆ペンで記入し掲示板に貼ったり、カレンダーの交換などして頂いている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1ヶ月に1回利用者と共に外食にでかけたり買物・外出したり、年に一度は、遠足に出かけたりしている。家族さんにも声かけて一緒に出かけることがある。	ADLの低下した方には、個別に散歩や屋外で過ごす機会を持つようにしている。散歩だけでなく、喫茶店や買い物にも少人数で出かけたり、玄関前のベンチに腰掛け庭や周囲の草花を見て日光浴を楽しむこともできるように支援している。希望でおやつを買いに個別の買い物に出かけたり、なじみの喫茶店へお茶を飲みに出かけることができるようにも個別に支援している。個別の外出には、家族の理解と協力も得るようにして楽しめるようにしている。定期的にパンの販売が来訪し、購入を楽しみにしているかたもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週に一回パンの購買日があり、買う・選ぶ楽しみを家族の了解を得て少しのお金を管理できるよう支援している。買物外出の際には、スタッフが見守りしながらレジにて支払いして頂いている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望された場合 家族との声・話で混乱が少なくなればと何時でも会話して頂ける様回線を多く持っています。ゆっくり話して頂ける様に自室で話して頂きます。又年賀状も出しており家族・知人からの年賀状も楽しみになっています。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に応じた壁画を作り庭に咲いている花を利用者と共に摘みに行き居室やリビングに飾り季節感を感じて頂ける様にしています。温度湿度計・加湿器も使用して快適に過ごして頂ける様配慮している。	季節感が感じられる各フロアの壁面に外食時の写真の掲示や季節に応じた、利用者の制作した作品を飾り、ゆったりとした家庭的な雰囲気が感じられる。利用者の得意なこと、希望や能力に応じて、一人ひとりが生活の中での役割を持ち、存在意義を持ち充実した生活を送ることができるように支援している。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには一人ひとりの席がありゆったり座って過ごせるソファでは3~4人座り、楽しく過ごされ、ピアノの横にはイスがあり弾く人がいれば横に座り歌を歌われる人も居りそれぞれが思い思いに過ごせるように工夫している。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人個人に応じた家具類の配置・ベット・畳に布団を引いておられる方など利用者によって考えている。又入居時、自宅からなじみの物を持ち込まれている。	利用開始時から使い慣れた道具や趣味の品を持ち込んでいただき、利用者がその人らしく過ごせるように配慮されている。利用者の希望や身体状況などに合わせベットや畳に布団を敷くなど利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」「できないこと」のアセスメントを行い又職員は周知して、できる事・できるかもしれない事を見守り・一緒に行うことで不安のない安心した生活環境を整えている。また、車椅子利用されている方でも立位出来る方は、トイレ誘導している。		